

黒野城と加藤貞泰公研究会
平成29年度(2017)活動行事記録

恒例の黒野城跡イルミネーションに「黒野城武将隊」登場

黒野城と加藤貞泰公研究会
平成29年(2017)4月1日(土)
黒野城跡イルミネーション

今年で6年目の夜桜とイルミネーションが黒野イルミネーション実行委員会と黒野まちづくり協議会主催で3月26日～4月2日に開催された。

今年は桜が遅咲きで期間中に開花のたよりがなく人も少なく残念であったが、4月1日には黒野城武将隊が登場し会場を盛り上げた。武将姿は会員9名、非会員2名、子供2名の13名。鎧教室師匠2名が分館で着替えの手伝い。イルミネーション点灯後、あいさつに続き「エイエイオー」で氣勢。記念写真を撮りあった。



色とりどりの鎧兜

鎧教室完成の
2名も初登場。
これだけの勢揃
いは初めて!!



本願寺 黒野別院の沿革石碑が蘇る

本願寺黒野別院の石碑経緯

昭和50年、黒野別院に設置されていた石碑が、平成8年頃あそか苑の建設で岐阜別院(西別院)に移されていましたが、平成28年末に研究会員の関谷氏が発見。その後、あそか苑様に研究会から移設お願い書を提出し、あそか苑様のご厚意とご尽力にて3月末に黒野別院跡に戻り蘇ることが出来ました。

石碑は、昭和50年9月に建立されたもので、当時黒野に在住の河合石材加工所の河井瑩爾(えいじ)氏が造園施主の一人で、この度の縁もあり、徳風院石碑の河井瑩爾様の御協力で白文字入れをして頂きました。

碑文には、加藤貞泰との関わりなどが記されています。



裏 建設当時の多数の寄進者名



造園施主に河井石材加工所 河合瑩爾

蘇れ黒野城!!「蛇の目紋・幟」でまちおこし



待望の布製幟！を製作・設置

いままで手作り紙製で展示会やイベントに使用していましたが、今年の事業で初めて綿素材のオリジナル幟が完成。黒野城跡は市公園課の承諾を得て設置しました。黒野城跡に13本、搦め手側外堀土塁跡1本、二の丸資料館3本を建てました。併せて屋内用、手持ち用の短竿も製作。旗は老舗で有名な吉田旗店で50枚製作、竹竿は黒野の後藤順市さん宅の竹林から4名の会員が約40本切り出し、延べ3日間の製作で設置。

来訪者の目に黒野城の存在が映えます。



大洲城の幟とよく似ていますよ



南東側の矢倉跡



公園を訪れた市民と共に



幟担当で記念写真



「濃尾古城探訪の会」御一行案内

「濃尾古城探訪の会」は、創立15年。美濃と尾張など東海地方に在住の会員が毎月1回、各地の城巡りを行っている団体で、2月に増田肇(はじめ)会長外3名が下見に来られ、今回、27名(内女性5名)が岐阜駅に集合して貸し切りバスで鷲山城跡を巡り、貴久家で昼食後、黒野城跡へ。

研究会4名(河口・関谷・名知・浅野)の案内で、城郭鬼門側などを中心に遺構を案内する。本丸跡や三の丸土塁跡に立てた幟も見学者に初披露。

好天に恵まれ、来訪の皆さんは江戸時代から残る小路や自然豊かな柿、桃園、400年前の城下町遺跡に堪能されてお帰りになりました。



黒野城跡



多賀神社



超勝寺本堂



古市場の古道・新芽の柿畑



光順寺山門(元黒野別院山門) 増田氏は、「この門は城門の作りのようですね」



鬼門側の土塁跡に登る



二の丸資料館



「みんなの森に大集合」参加 「鎧兜手作り教室作品展」

黒野城と加藤貞泰公研究会
平成29年(2017)5月7日(日)
ぎふメディアコスモス
9:00~16:20

黒野会館にて平成28年度に開設した鎧兜手作り教室の作品4着を「みんなの森に大集合」(ぎふメディアコスモス)に展示。初めて校区から出での展示会。

多数の見学者もあり、交流を深めました。

子供達から試着・写真撮影の希望があり、中山浩子師匠他スタッフは大忙しでした。



会場 ギャラリーホワイエ



同日上演の紙芝居PRに会場廻り
製作者の小島さん
(右)と河島さん



子供用製作者の岩佐さん



チャンネルCCNの撮影



黒野城と縁が深い亀姫、森蘭丸(岐阜おもてなし集団 響緑隊)も鎧に関心



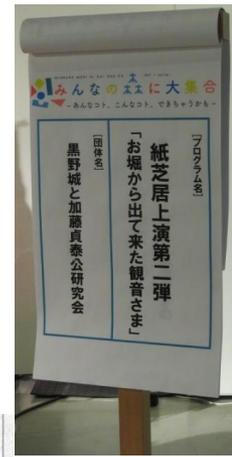
「みんなの森に大集合」参加 紙芝居第2弾 「お堀から出てきた観音さま」

黒野城と加藤貞泰公研究会
平成29年(2017)5月7日(日)
ぎふメディアコスモス
16:05~16:25

昨年秋の第1弾「黒野のお殿さま」に続き、第2弾「お堀から出てきた観音さま」を上演。
河合正幸さんと神山順子さんのコンビでお披露目。プロジェクターで概要説明も行う。



会場 どきどきテラス



ダンスや歴史研究 サークル活動紹介

メディアコスモスで34団体

岐阜市を拠点とする市民サークルの活動を紹介します。体験したりするイベント「みんなの森に大集合 あんなコト、こんなコト、できちゃうかも」が7日、同市のぎふメディア

中日新聞朝刊
岐阜・近郊版
2017年5月9日

アコスモスで開催された。「みんなの森 ぎふメディアコスモス自主事業実行委員会」が主催し、岐阜市が共催。三十四団体が参加した。児童合唱団や詩吟の会は、日ごとの練習の成果を披露。黒野城（岐阜市黒野）を研究する会は、地域の歴史を紹介した。フラダンスや、アニメなどの衣装を着たコスプレダンスもあり、会場を盛り上げた。

岐阜市の担当者は「さまざまな活動がこの街ができていくと、知ってもらいたい。団体間のネットワークづくりにも、つながればうれしい」と話した。（井上仁）



七郷の「ふるさと歴史文化講座」の御一行来訪

七郷から「ふるさと歴史文化講座」の福島義人会長、高橋弘副会長御一行18名が黒野城跡に来訪。雨天でしたが、黒野会館分館二階で郷孝夫顧問から「黒野城とわが郷土」についての講演会。続いて河口会長から「甦る黒野城」と題して岐阜市の発掘調査状況と会員によるまちづくり活動を紹介。その後、一昨日前に草刈をした土塁跡を一周し案内。

黒野にゆかりのある方も数名おられ、身近な地域の400年の歴史文化を紹介することが出来ました。



男性9名、女性9名が来訪。黒野城は初めての方が十数名で、黒野を知ってもらいました。



高橋弘ご夫妻

網代地区の遺・史蹟巡り

「当地での史跡巡りは始めてだと思います」(高井氏談)

黒野城と加藤貞泰公研究会
平成29年(2017)5月21日(土)
12:30~17:00

研究会の恒例行事の一つ、今年は岐阜市北西部網代地区の遺跡・史蹟巡り。研究会の高井勝さんと河島勝さん(いずれも網代出身)の案内で全10名が参加。龍峯寺と安東守就墓→宝巖寺と夫婦岩→秋沢古墳郡→善入寺と船繋石→圓光寺→臥龍山城跡→宇田遺跡→傘松→宇田坂を巡り網代の歴史文化を堪能。



龍峯寺



龍峯寺境内裏山 安東守就墓



宝巖寺(河島氏菩提寺)



夫婦岩



圓光寺 旗本梅村五郎八の家来山崎直蔵の墓



善入寺本堂にて



善入寺



善入寺住職と寺宝「蓮如上人六字名号」



圓光寺本堂にて



臥龍山城跡・墓地(高井氏墓)



臥龍山城跡・北側曲輪か



松並木があった「からかさ松公園」

交人喧嘩松跡(「美濃里の輪」碑) に案内板立つ

6月17日「第4回黒野探訪」案内コースの一つ、交人の喧嘩松跡を紹介するために、交人広場にて3月28日に樹木の剪定を案内人4名で実施。その後、交人関係者による草刈、焼却後の6月10日に草刈実施。事前に交人の自治会や関係者に設置許可を得て、6月12日に製作の(有)サインタワー河合さんと関係者にて案内板設置。約450年前の交人村歴史文化の一つを紹介することが出来るようになりました。



3月28日 樹木剪定前



3月28日 樹木剪定後



6月12日 案内板設置後



戦国時代には、鵜飼郷の総社深坂神社の祭頭を七流(各村の代表)が交互で務めたが、大永(一五二二年)〜天正初期(一五七〇年代初め)まで交人村の祭頭は筑間氏だった。その後、郷氏に変わっていく。

「喧嘩松」は、その筑間氏と郷氏との抗争を象徴する事件で、「美濃國稲葉郡志」によれば、「系図争いがもとで、双方総出の真剣による出入りとなり、筑間が破れて村から敗走した。その争ったところに松樹があったから世の人は喧嘩松というようになった」との趣旨の記載がある。

喧嘩松跡地に「美濃里の輪」碑を平成十三年(二〇〇一年)、郷組が建立。

平成一九年六月

黒野城と加藤貞泰公研究会

喧嘩松の由来

第4回「黒野歴史探訪」古市場・今川・交人の史蹟めぐり

今年の「黒野歴史探訪」(黒野まちづくり協議会主催・企画案内研究会)は、黒野北西部の3か村巡り。好天にも恵まれ、事前申込の一般46名と研究会14名、交通安全3名、報道1名の計64名が参加。古市場6か所、今川6か所、交人8か所を4人の案内人が説明。小川市跡、神社3、寺院1、庄屋門1、堂4、石仏・観音5、碑1、新たに案内板を建てた喧嘩松跡、交人公民館の約5kmを巡る。地域の古き歴史文化を紹介・学ぶことができました。



古市場 小川市跡



古市場 庄屋敷門



古市場 庚申堂



古市場 熊野神社



交人 北野神社



今川 地蔵堂



今川 辻の灯明



今川 七面堂・天井絵



交人 喧嘩松跡



交人 多福院



交人 公民館



今川 八幡神社・大杉

【新史料で定説を覆す】天正8年(1580)岐阜今泉村橋詰で誕生 加藤貞泰公の生誕地は、岐阜市内であった！



加藤貞泰肖像画 大洲 曹溪院

戦国大名の加藤貞泰は、加藤家の家史「北藤禄」によると近江国磯野村生まれが定説でありましたが、高野山の伊予大洲 加藤家墓所 貞泰公の五輪塔に、「生国濃州岐阜橋詰」の刻銘を確認。貞泰公没後、大洲城の家督を相続した長男五郎八 泰興が父を供養するため造立した石塔です。生誕地を記した史料では最も古い一次史料です。

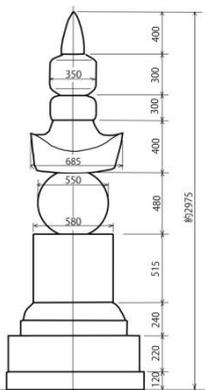
3年前に研究会員の座馬氏が、殆ど読めない文字を指で確認し報告されたが、今年7月5日に文字確認を目的に水洗い・拓本写し・写真撮影で更に詳しい調査を4名にて実施。刻銘に間違いはないことを検証。「加藤貞泰公の生誕地調査」を報告書にまとめた。

生國濃州岐阜橋詰今者
与弼大洲為加藤左近殿
梵字 為英叟雄公大居士神祇
孝子加藤五郎八造立之
元和九癸亥五月廿二日

五輪塔の原文



- 〈五輪塔原文・文字の解説〉
- ・生国：生まれた故郷
 - ・濃州岐阜橋詰： 美濃国岐阜の今泉村内の橋詰現在の端詰町(美江寺公園と岐阜市役所の間)
 - ・加藤左近殿： 加藤貞泰の名(黒野城では左衛門尉、米子城に移り、左近大夫將監に改名。)
 - ・英叟雄公大居士：貞泰公の戒名
 - ・加藤五郎八： 貞泰公の長男泰興の幼名
 - ・元和9年5月22日：貞泰公の没年月日(44才)



五輪塔
高さ約3m



高野山 加藤家墓所



「加藤貞泰公の生誕地調査」
報告書

黒野城跡 旗増設で16本に・竹竿回転式に改造

- ・4月設置の幟、台風で傷んだ竿を固定式から筒に差し込む方式で回転式に改良。3本増やし16本に、ひとときわお城らしさに。
- ・黒野城跡の南側土塁階段に手摺が付き安全に歩けるようになる。(市公園課) ここ上下にも旗取付。



階段に和風の手摺りが付く



竿取付部

- ・上下の塩ビ管に差し込み式。
- ・風向きにより旗が回転するようになりました。
- ・旗、竿のメンテナンスが容易になりました
- ・旗布が上に上がらないように下部竿にナイロンのタイラップで締付。



「小川市について」

平成29年度黒野館公民館歴史講座 講師 研究会顧問 郷孝夫

2013年に、郷孝夫氏が研究発表し自費出版した
小川市について、黒野公民館の歴史講座で講演。
地元や地域外から45名が参加。
平安時代の

プログラム

- 1 古典の中の小川市
- 2 小川市所在の模索
- 3 太古鶺鴒郷の地理的状況
- 4 小川市はどこにあったか



黒野小ふるさと学習 黒野城下町フィールドワーク

黒野小学校(深尾雅人校長)ふるさと学習、フィールドワークが秋晴れの下で実施。

6年生児童103名が3クラスに分かれ、武将隊13人が黒野城下町を案内。小川市跡や馬頭観音、そして黒野城跡などの史跡では会員が歴史や由来などを説明し、生徒は熱心にメモを取っていました。小学校に戻った後は質疑応答、代表児童の感謝の言葉も。深尾校長から武将姿の人達と一緒に歩き、説明を聞いた子供達は思い出として残る体験と言葉がありました。後日、児童全員から感謝の手紙を頂戴する。この日は、市民活動交流センターによる11月放送番組の取材もありました。案内模様は当日の「ぎふチャン」TV18:15～のニュース番組「Station!」と、中日、岐阜新聞に掲載された。



中日新聞 9月26日

全児童からの
お礼状→



**黒野の史跡で
地域史を学ぶ**
岐阜・黒野小

岐阜市黒野小学校六年生が地域の文化財や史跡をめぐる「ふるさと学習」が二十五日、同市黒野地区で開かれ、百三人が一黒野城と加藤貞泰公研究会メンバーの解説で、郷土の歴史や文化に理解を深めた。

研究会会員は、手作り甲冑姿で現れ、戦国時代の気分を演出した。児童は多賀神社や馬頭観音などを会員と巡り、河川耕三(一五八〇-一六二三年)について学んだ。水害から農民を守ろうと治水に力を入れたとい、河川会長は「若く、非常に優秀な殿様が黒野にいたことを知ってほしい」と呼び掛けた。河川会長は「(三)は、これまで名前を知っているだけだった場所について、詳しく知ることができた」と話した。(水越直哉)



黒野城跡の土塁の上で、河川会長らの解説を聞く黒野小の児童たち＝岐阜市黒野で



第36回黒野校区市民大運動会 「黒野城武将隊」仮装行列

2年毎に開催される、運動会に「黒野城武将隊」は今年で3回目の参加。会員のほか市民も加わり30名で出場。スタッフ含めると総勢35名。鎧武者姿や新しい旗も年々増えて、一段と華やかに。黒野城下に実際に居た家臣名とともに紹介。



加藤貞泰の弟平内の采地 揖斐郡池田町六之井から来訪

関ヶ原合戦の前、加藤貞泰は弟平内光直を小山の家康のもとに人質として差し出した。平内は合戦にも参戦、徳川の勝利に貢献した功績で、美濃国池田・安八・不破郡内で采地3640石を与えられる。池田郡六之井に陣屋を設け六之井加藤氏と称された。正道寺には光泰らの位牌もあり、2013年研究会が訪問して交流をした。その六之井から14名(男6名・女8名)が平内ゆかりの黒野城跡へ来訪。城下町や黒野会館まつり会場を案内、大変喜んでお帰になりました。



黒野城跡の研究会掲示板を覗く



光順寺にて



二の丸資料館



会館まつり会場

「平成29年度会館まつり」

黒野城と加藤貞泰公研究会
平成29年(2017)10月28日(土)、29日(日)

- ☆貞泰公生誕地は岐阜市だった！
- ☆信長岐阜入城450年 信長本など
- ☆舞台演技「黒野 城下町賛歌」合唱



名知さん収集の信長コーナー



貞泰の生誕地・高野山五輪塔から特定



懐かしい昔のドーナツレコード盤を紹介



貞泰の弟平内の地・池田町六之井から14名来訪



「黒野 城下町賛歌」地元の舞台初登場

長良川おんぱく2017 プログラムNo.ナンバー135 「岐阜市三大古城のひとつ黒野城&富有柿ざんまい！」開催

今年も長良川おんぱく2017、プログラムナンバー135「岐阜市三大古城のひとつ黒野城&富有柿ざんまい！」開催。当日は朝からの雨も散策開始のタイミングで止み、黒野城跡から史跡や神社など、参加頂いた14名の皆様とお手伝いの岐阜大学女子学生4名と共に黒野の町歩き。明善寺では貴重な寺宝や格天井絵をご住職の説明と共に見学しました。

城跡の公民館に戻った後は、地域で収穫された富有柿を食べながら研究会員による紙芝居「お堀から出てきた観音さま」の上演を鑑賞。参加者にはお土産として、袋一杯の富有柿をお持ち帰り頂きました。足元の悪い中、参加者の皆様と協力して頂いた4名的女子大生に御礼申し上げます。



大秋と富有柿

←黒野城跡分館で
紙芝居と柿ざんまい



明善寺住職から寺歴のお話と
伊原宝水の格天井絵



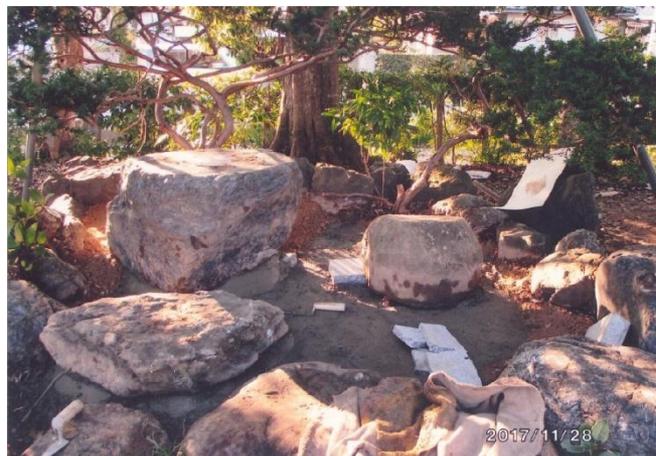
三ツ又の芭蕉・寸木連句碑 保存活動(台座補強)

三ツ又の地蔵寺跡に建つ連句碑が、昭和40年(1965)台座竣工以来、52年の経過により傾斜してきているため、案内板設置の前に修理の必要性を感じ、研究会では地主の超勝寺や三ツ又の関係者様に修理を提案し実施することになりました。

工事は近ノ島の徳風院石碑に発注し、二つの碑の土台部分を厚さ約25cm、幅80cm、長さ140cmのコンクリートで固め補強しその上に石を置き円柱の碑を置いた。従来より碑は少し高くなり、見栄えも良くなり、碑と土台石は接着材で固定、安定性も良くなりました。徳風院石碑河合氏のご厚意で、他2箇所の灯籠傾きも土台から直され感謝します。



工事前

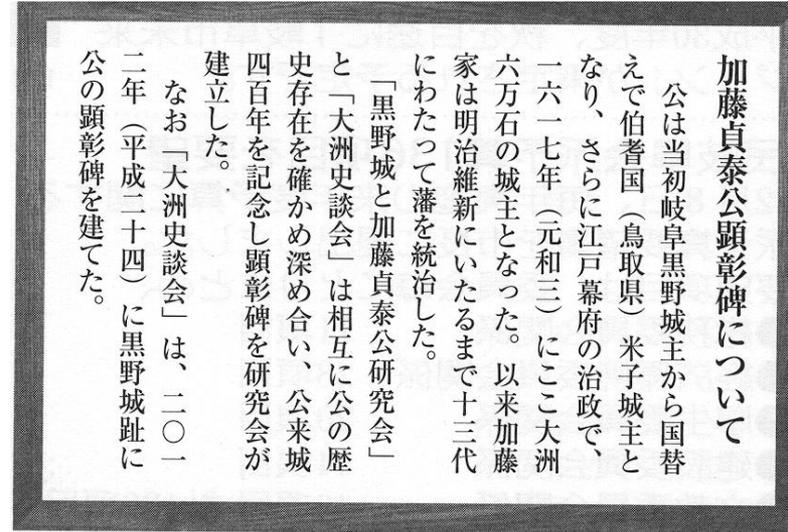


工事後

大洲入城400年記念 加藤貞泰公顕彰碑除幕式

今年、加藤貞泰公大洲入城400年を記念して、研究会は大洲史談会との相互の交流から大洲城本丸跡に顕彰碑を寄贈しました。

大洲市清水市長初め、加藤家18代加藤泰伸当主、大洲史談会上杉潤会長など大洲関係者24名と岐阜からは信田顧問、岐阜市教育委員会内堀社会教育課長、岐南町正村氏が出席。快晴の中厳粛な除幕式が開催されました。碑筆は細江岐阜市長の揮毫(きごう)。碑の台座部と説明文は大洲史談会が担当していただき、共に大洲の叶石材(株)で製作。終了後、料苑たる井で大洲史談会の皆さんと交流会が行われました。



台座の石に取りつけられた説明文



芭蕉・神山寸木連句碑に案内板設置/除幕式

研究会は、三ツ又の芭蕉・寸木連句碑に案内板を設置し盛大に除幕式を開催。
 俳句関係者や地域の皆さん約60名が参加し、河口会長は、今日は平成30年3月3日、芭蕉が連句を詠んでから330年、三ツ又の三並びと目出度い日ですと挨拶。美濃派獅子門道統第41世・県連句協会長の
 大野鶴土氏、市教育委員会の内堀信雄課長、新日本ガス(株)高井宏康会長、岐阜大学地域科学部富樫幸一教授から祝辞を頂きました。大野氏は「奥の細道には発句と脇句に例外もあり、句を解釈すると三ツ又で詠んだ可能性が高いと思います」とお話がありました。
 また経年で碑が傾いてきたため、併せて台座補強も披露。冊子【三ツ又を詠んだ俳句「芭蕉・神山寸木連句碑」調査研究】を発行した。



どこまでも武蔵野の月影涼し
 水相似たり三またの夏
 寸木
 芭蕉



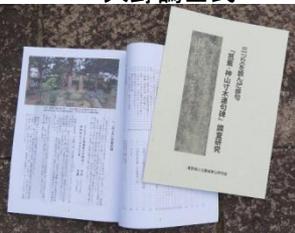
大野鶴土氏



内堀信雄氏



高井宏康氏



←冊子発行



来賓のあいさつ

←富樫幸一氏



芭蕉と連句 地元俳人に再び光

岐阜・三ツ又の神山寸木

傾いた碑を補強、顕彰板作成

江戸時代、松尾芭蕉^{まつお ばけう}とともに連句を巻いた神山寸木^{みやま せん}（1695）という俳人が、今の岐阜市にいた。句を刻んだ碑を息子が建てたが、いつの間にか忘れ去られた。伊勢湾台風^{いせのうみ}の折、たまたまその碑が見つかり、脚光を浴びたが、半世紀が経ち、また忘れられた。今度こそ語り継ぐと、地元^{じよん}の歴史愛好家や住民、企業が協力し、再び光を当てようとしている。

寸木は、現在の岐阜市折立の三ツ又地区の庄屋で、俳諧に通じていた。一おもしろうてやがて悲しき鶉舟かな—などの名句を残した芭蕉が1688年に岐阜に滞在した際、一緒に連句を巻いた。

「校本 芭蕉全集」によると、芭蕉に対するあいさど、

どこまでも武蔵野の月影
涼し（寸木）
水相似り三またの夏（芭蕉）



新たに作られた顕彰板。寸木と芭蕉の連句碑について紹介している



寸木の子孫神山忠司さん

「校本 芭蕉全集」によると、芭蕉に対するあいさど、

どこまでも武蔵野の月影
涼し（寸木）
水相似り三またの夏（芭蕉）

碑が再び日の目を得たのは、建立から200年以上経った1959年の伊勢湾台風がきっかけだった。台風で荒れた境内を片付けていた婦人会の女性が、墓石と一緒に転がっていた石の一つに「芭蕉」と刻まれて寸木と芭蕉の連句碑。碑の左下部分に「芭蕉」と刻まれている。いずれも岐阜市折立

いるのを発見。寸木の碑と分かり、1965年に台座が作られ、祝賀会も開かれた。ただ、再発見からも半世紀が経ち、地元の人以外からはまたも忘れられた存在になってしまった。

碑に関心を持った地元^{じよん}の歴史愛好家団体「黒野城と加藤貞泰公研究会」のメンバーが2016年に調査を開始。寸木の子孫で市内に住むテラー経営神山忠司さん（74）の協力も得て、神山家に残る資料を解読したり、碑の拓本をとったりした。調査の結果、年代が刻まれている県内の芭蕉の句碑の中では、この碑が最も古いことが判明した。

昨年12月には地元住民や企業の協力を得て、傾いていた台座を補強する工事を実施。今年3月、碑の近くに寸木を紹介する顕彰板も作った。

大野鶴士・県連句協会会長は「地域で守られてきた碑。芭蕉の足跡を感じられる貴重な碑であり、もっと知られるべき存在」と評価。神山さんは「子孫でも知らなかった歴史をひもといてくれた。本当にありがたい」と感謝した。

（山野拓郎）

芭蕉が詠んだ連句碑

岐阜 案内板を設置、除幕式

江戸時代の俳人、松を続けている「黒野城 案内板は縦約八十センチ、横約百八十センチ。芭蕉が折立の当時の地名などを作った。

案内板は縦約八十センチ、横約百八十センチ。芭蕉が折立の当時の地名などを作った。



新設された連句碑の案内板＝岐阜市折立で

三ツ又を詠み込んだ。句碑が見つかった経緯を記している。

除幕式には、会員や地元住民の約二十人が出席。河口耕三会長（左）は「これまで埋もれていたが、非常に価値のあるもの。案内板で地域の文化の活性化につながる」と述べた。（鳥屋彰子）

2018年3月8日放送より



石碑の連句

神山寸木 「どこまでも武蔵野の月影涼し」
松尾芭蕉 「水相似り三またの夏」

2018年(平成30年)3月6日(火) 中日新聞 岐阜・近郊版

2018年(平成30年)3月6日(火) 中日新聞 岐阜・近郊版

「水相似り三またの夏」と返した。地域には、寸木の子孫が建てた石碑が残っている。案内板は句が詠まれてから、今年で三十三十年になるのを記念して設置。地域の歴史を多くの人に伝える活動



新設された連句碑の案内板＝岐阜市折立で

三ツ又を詠み込んだ。句碑が見つかった経緯を記している。

除幕式には、会員や地元住民の約二十人が出席。河口耕三会長（左）は「これまで埋もれていたが、非常に価値のあるもの。案内板で地域の文化の活性化につながる」と述べた。（鳥屋彰子）

「ふるさと黒野検定」平成29年度表彰式

毎年の恒例行事「ふるさと黒野検定」子ども版の表彰式が黒野小学校で行われました。

延べ6回実施してきた郷土黒野の歴史検定60問に4年生～6年生の児童269名が受験。表彰は黒野小山崎教頭先生の司会で、研究会の浅野部会長から年間を通して成績が良かった児童のクラス代表者6年1組日比野彩香さん、クラス表彰6年3組松岡知輝君に賞状、メダルを授与された。

この機会を通して子ども達が地域の歴史文化に、より関心を持ち郷土愛が生まれることを期待します。

表彰式には検定を担当した部会メンバー5名が参加しました。



受験者	4年生	106名
	5年生	68名
	6年生	95名
合計		269名

表彰者	最優秀賞 金メダル (全問満点)	優秀賞 銀メダル	優良賞 銅メダル
4年生		1名	4名
5年生	2名		1名
6年生	8名	2名	1名
クラス表彰	6年1組		



「まなざしの会」ご一行案内

「桜満開の黒野城跡・城下町&芭蕉連句碑」

黒野城と加藤貞泰公研究会
平成30年(2018)3月30日(金)
12:時50分～15時30分

春の日差しに桜満開のなか「まなざしの会」のご一行13名(郊外研修・市内外)が貴久家で昼食後、黒野城跡へ。本丸を廻り、多賀神社、小川市、旧家長屋門、光順寺山門、二の丸資料館見学し新コース三ツ又の芭蕉・寸木連句碑へ。全コースを会員の自家用車4台で移動。楽しいひとときを過ごされました。



桜満開の本丸土塁



多賀神社拝殿の棟札



二の丸資料館



二の丸資料館



光順寺



光順寺山門の菊紋



三ツ又の芭蕉・寸木連句碑 →
3月3日に案内板設置後、初案内